

新たに育成したスターチスオリジナル品種 「EK04-07-1」および「EK04-07-3」の特性

1. はじめに

暖地園芸センターでは、これまでにスターチスオリジナル品種として「紀州ファインイエロー」等4品種を育成してきましたが、需要の高い紫・青紫系の品種がなく、育成が望まれていました。

そこで、今回新たにかぐの色が青紫色の「EK04-07-1」と紫色の「EK04-07-3」を育成しましたので紹介します。

2. 育成経過

2007年4月、県内育成品種・系統を混植したハウス内にミツバチを放って交配し、「紀州ファインルビー」から採種しました。播種後、抽台が早く、かぐの色が紫・青紫系の個体を選抜し、2008年から2年間、特性調査や生産力検定を行いました。その結果有望と認められた「EK04-07-1」と「EK04-07-3」を2010年3月に品種登録出願しました。

2. 特性

(1) 濃い青紫色で作業性がよい「EK04-07-1」

本品種は、かぐの色が濃い青紫色（JHSカラーチャート：青味紫 8311）です。花房数9.2個、花房長8.7cm、花房幅4.1cmと対照品種と比べるとやや数は少ないですが、大きな花房をつけます（図1、表1）。また、分枝角度は鋭角で草姿がよく、作業性に優れます（図1）。3月までの収量は2008年が15.4本、2009年が18.3本で、対照品種と同等の収量性があります（表1）。

(2) 高性で収量性が高い「EK04-07-3」

本品種のかぐの色は「EK04-07-1」に比べるとやや淡い紫色（JHSカラーチャート：紫 8612）です（図1）。切り花長が99.1cmと「EK04-07-1」より長く、初期から秀品を採花しやすい品種です（表1）。3月までの収量は、2008年が15.1本、2009年が25.9本と極めて多く、収量性に優れます（表1）。

4. おわりに

オリジナル品種には種苗の低コスト化や産地の独自性を強調出来るといったメリットがあります。今回育成した2品種は、スターチスの主要花色である紫・青紫系品種であり、これらの普及により県内スターチス生産のさらなる振興が期待されます。今後はピンク系、青系品種を育成し、カラーバリエーションの拡充を図っていきます。

（育種部 小川 大輔）



図1「EK04-07-1」(左)および「EK04-07-3」(右)の草姿(上段)と花房(下段)

表1「EK04-07-1」および「EK04-07-3」の切り花特性と収量

品種系統名	切り花長 (cm)	花房数 (個)	花房長 (cm)	花房幅 (cm)	かぐの色 ^z		花冠の色 ^z		収量(本/株)	
					(色名)	(No.)	(色名)	(No.)	2008 ^y	2009 ^x
EK04-07-1	96.1	9.2	8.7	4.1	青味紫 (8311)	淡緑黄 (2702)	15.4	18.3		
EK04-07-3	99.1	9.0	8.1	3.8	紫 (8612)	淡緑黄 (2702)	15.1	25.9		
サンデーバイオレット	105.3	16.0	6.8	3.9	青味紫 (8310)	淡緑黄 (2702)	16.1	14.8		
デュエルバイオレット	106.5	10.2	8.7	3.9	青味紫 (8311)	淡緑黄 (2702)	11.9	15.4		

z: JHSカラーチャートによる。調査日: 2010年2月10日

y: 2008年10月21日から2009年3月18日まで調査

x: 2009年11月6日から2010年3月30日まで調査